

令和2年度市民等からの提案によるごみ減量モデル事業 採択団体一覧

採択団体数8件、助成総額 3,000,000円（助成種別・五十音順）

■先進的モデル事業助成(地域活動モデル)(1件)

団体名	株式会社 応用芸術研究所	代表者	代表取締役 片木孝治
事業名	地域・多世代連携で家庭内ストック問題をストックレスで解決するリユースモデルの啓発・普及促進		
<p>家庭には、多くの物が眠っており、将来の廃棄物の予備軍であるほか、平常時の生活動線の妨げ、災害時のリスク増大の原因などになっている。令和元年度「家庭内ストック問題を解決するストックレス(物を集積しない)な地域・多世代連携リユース」の取組を基に、若者が主体となり高齢者と連携できる持続可能なリユースモデルとして、ごみ減量に向けた次世代育成と啓発・普及促進を目指す。</p>			
[交付予定金額 835,000円]			

■地域活動事業助成(7件)

団体名	一般社団法人 蛍光管リサイクル協会	代表者	代表理事 原 強
事業名	あらためて電池について考える		
<p>電池について調査研究を行い、パンフレット作成、ホームページにて普及、啓発する。調査研究では、「電池と水銀」について歴史的な経緯を確認するとともに、乾電池の排出・処理(再資源化含む)の実態・課題を確認するとともに、「電池由来の発火事故」についてその実態を明らかにし、メーカーの対策、廃棄物として排出・処理される段階での対策を検討する。</p>			
[交付予定金額 400,000円]			
団体名	特定非営利活動法人コンシューマーズ京都	代表者	鯉江 賢光
事業名	プラごみ削減のための消費者の実態と意識調査(レジ袋アンケート)		
<p>7月1日のレジ袋有料化の実態調査と、消費者の意識、行動変化や工夫についてアンケート調査を行う。また、12月からの亀岡市の禁止条例施行への意識調査も行い、まとめと報告会を行う。新型コロナの外出自粛生活で持ち帰り容器が増えたことにも注目し、現状を調査したい。</p>			
[交付予定金額 285,000円]			
団体名	一般社団法人里山デザイン	代表者	代表理事 福元 宏徳
事業名	DIY&福祉連携 傘アップサイクルプロジェクト		
<p>使い捨てられた“ビニール傘”をアップサイクルした商品を開発し、その作り方を配信及びWS等を啓発活動を行う。これにより、一般消費者はDIYでモノづくりを楽しみながらスキルを習得し、物との付き合い方、消費のあり方やごみ問題について考える機会とする。商品開発においては福祉作業所と連携することで、DIYとは別軸で新たな価値の創出も試みる。</p>			
[交付予定金額 365,000円]			
団体名	SKY.ペイントアートフレンズ	代表者	代表幹事 小林 静枝
事業名	パソコンお絵描きでオンリーワンのエコバッグを作ろう！		
<p>パソコンお絵描きで書いた絵を、自分だけのエコバッグにすると、子どもが愛着を持って使い続ける。活動を通し、子どもや保護者に今、真剣に取り組むべきプラスチックごみ減量に繋がることを体験を通して訴えかけ、環境保護への意識を啓発します。母子福祉施設において「パソコンお絵描き教室」を実施、研修会(会員の描画力向上、指導技術向上)も実施している。</p>			
[交付予定金額 225,000円]			
団体名	桃山エコ推進委員会	代表者	委員長 大倉正暉
事業名	ごみ減量のエコ地域づくりの拡大～他地域・若者との連携をめざして		
<p>生ごみのたい肥化や、エネルギーの活用について、実践しながら地域に広めてきたが、地域活動の担い手が高齢化し、京都ならではの学区単位の諸活動は岐路を迎えている。そこで、他地域のごみ減量活動と交流し、住民に訴求力のある環境教育プログラムを模索、実践する。また、高校生や大学生にも活動参加を呼び掛ける。このような方法で、地域の子どもたち・子育て世代が楽しめるごみ減量・エコ活動をさらに充実させ、地域力の向上を図る。</p>			
[交付予定金額 190,000円]			
団体名	森パス実行委員会	代表者	松田直子
事業名	落ち葉からSDGs～森へのパスポート～		
<p>「京の杜プロジェクト」の活動と連携し、1枚の落ち葉から地域の大人や専門家から学び、こども探偵が謎を解き、1人前の探偵に成長していく物語(ワークシート)を制作する。大学、消費者団体、企業等と連携して、家庭での生ごみと落ち葉を活用した堆肥で新たな緑を育てる循環型社会を目指すとともに、実際に親子で落ち葉拾いと堆肥化などを体験しながら、いのちや自然の循環について学ぶ講座を開催し、情報を発信する。</p>			
[交付予定金額 300,000円]			
団体名	特定非営利活動法人 森守協力隊	代表者	理事長 宮西恵津子
事業名	落ち葉・生ごみ堆肥化八策推進事業		
<p>家族参加者を募り、落ち葉を堆肥化し、出来た腐葉土を利用し生ごみのたい肥化をはじめ、多種多様な自然と親しむプログラムにチャレンジしながら、楽しく環境活動動に取り組む。地域間交流体験活動では、地域の農家の方と収穫を感謝しつつ、食品ロスの社会問題にも多角的な視点で取組む</p>			
[交付予定金額 400,000円]			